令和４年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
わくわくキャンプ@吉備

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

経済的な事情などで、子供たちに体験をする機会が与えられていないひとり親家庭を対象に、吉備の自然を生かした活動や体験活動を行い、ひとり親家庭での体験活動を支える。

２．事業の概要

（１）期日

第１回　令和４年８月７日（日）日帰り
第２回　令和４年１１月１９日（土）～２０日（日）１泊２日

（２）参加者

①　募集対象・人数
ア．第１回
岡山県内の幼児（未就学の４～６歳児）、小学校低学年の子供とその家族・１０家族３０人程度
イ．第２回
岡山県内の小学校中学年高学年の子供とその家族・１０家族３０人程度
②　参加人数
ア．第１回　１４家族３５名
イ．第２回　　８家族２４名

（３）連携機関

①　ＮＰＯ法人チャリティーサンタ（岡山市）
②　子どもソーシャルワークセンターつばさ（倉敷市）
③　岡山市役所岡山っ子育成局子育て支援部こども福祉課

（４）企画・運営のポイント

①　それぞれの回で対象年齢を設定し、参加する子供の年齢を考慮し、対象年齢に適した活動が展開できるよう工夫した。
②　昨年度のアンケートから、参加者たちのやってみたい活動をそれぞれの回で実施できるようにプログラムを設定した。
③　熱中症対策として、受付時に飲み物を渡し、活動中も随時塩分タブレットを配布した。
④　昨年同様、参加費無料、無料バス送迎を行い、保護者の負担軽減に努めた。
⑤　一般募集はせずに、ひとり親家庭や貧困家庭の支援に取り組んでいる行政やＮＰＯ団体と連携し、対象の家庭に直接案内が届くように広報協力を依頼した。

３．活動の内容等

（１）日程

①　第１回　令和４年８月７日（日）日帰り

８月７日（日）	
9:30	受付
10:00	開会式・アイスブレイク
10:45	泥遊び(保護者交流会)
12:30	昼食（レストラン弁当）
13:30	川遊び
15:15	閉会式
15:30	解散・バス送り

②　第２回　令和４年１１月１９日（土）～２０日（日）１泊２日

１１月１９日（土）		１１月２０日（日）	
10:30	受付	6:45	起床・洗面・掃除
11:00	開会式	8:00	朝食（レストラン）
11:15	アイスブレイク	9:00	きびだんご作り
12:00	昼食（レストラン）	11:00	親子でクラフト！
13:00	おもしろ自転車	12:00	昼食（レストラン）
	フィールドアスレチック	13:00	親子でクラフト！
	マウンテンバイク(選択)	14:00	閉会式
15:00	親子で野外炊事！		解散・バス送り
19:00	キャンプファイヤー		
21:00	入浴		
22:00	就寝		

（２）活動の状況

①　第１回　令和４年８月７日（日）

【アイスブレイク】

【泥遊び①】

【泥遊び②】

【川遊び】

② **第2回** 令和４年１１月１９日（土）～２０日（日）

【キャンプファイヤー】

【親子で野外炊事！】

【きびだんごづくり】

【親子でクラフト！】

４．成果・課題

（１）満足度

満足：９２％　やや満足：８％

（２）参加者の声

①　第１回参加者

ア．このような事業をもっとたくさんしてほしいです。体験型のイベントはなかなかしてやれてなかったので、また参加したいし、もっとたくさんの方が利用できるようになれば嬉しいです。

イ．楽しい１日をありがとうございました。思い出づくりができにくい夏休みですが、良い思い出づくりになりました。

②　第２回参加者

ア．親も子供と同じように参加・体験させてもらえることがよかった。

イ．車がないので、駅からの送迎がとても助かりました。送迎付きの活動はありがたいです。

（３）成果

①　昨年度のアンケートでやってみたい活動に書かれていた「保護者交流会」を８月に、「キャンプファイヤー」を１１月に活動内容として組み込み、参加者からの好評を得ることができた。

②　家族単位ではあまり体験できない活動を提供することで満足度につながった。

③　２回目は保護者交流会を実施しなかったが、複数家族同士が組む班行動を多く入れたことで、家庭同士の交流が生まれた。

（４）今後の課題

①　今年度も２回とも応募数が募集人数を大幅に超えた。需要が供給を大きく上回っているので、多くの希望者にどのような形で体験を提供できるか検討する必要がある。

②　家庭ごとのニーズが多岐にわたるので、活動内容・時間配分のバランスをとりながら、どのように要望に応えるか考えながらプログラム設計をしていく必要がある。

③　第２回に参加してくれたボランティアは２名だった。多くのボランティアが前週のチアフルデーに参加したため、少なかったのではないかと考える。宿泊事業であり、ボランティアの力も必要にしていたため、事業の実施間隔について想定しておく必要がある。

担当：企画指導専門職付　小城　洋介

令和４年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
自然体験フォローキャンプ

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

豊かな自然環境の中での野外探索や野外炊事、トウモロコシ狩り・牛のえさやり・スキー体験等を通して、自主性、達成感、自己肯定感の向上を図る機会とするとともに、青少年施設での生活を通して、生活リズムの改善、ルールやマナーの習得、仲間と一緒に過ごす中での協調性や相互理解を深める機会とし、更なる生活力の向上を図る。

２．事業の概要

（１）期日

第１回　令和４年７月１６日（土）～１８日（月）
第２回　令和５年２月　４日（土）～　５日（日）

（２）参加者

第１回　社会福祉法人みその児童福祉会　岡山聖園子供の家
　　２１人（幼児５人、小学生４人、中学生２人、高校生５人、職員５人）
第２回　社会福祉法人みその児童福祉会　岡山聖園子供の家
　　１５人（小学生４人、中学生２人、高校生４人、職員５人）

（３）講師等

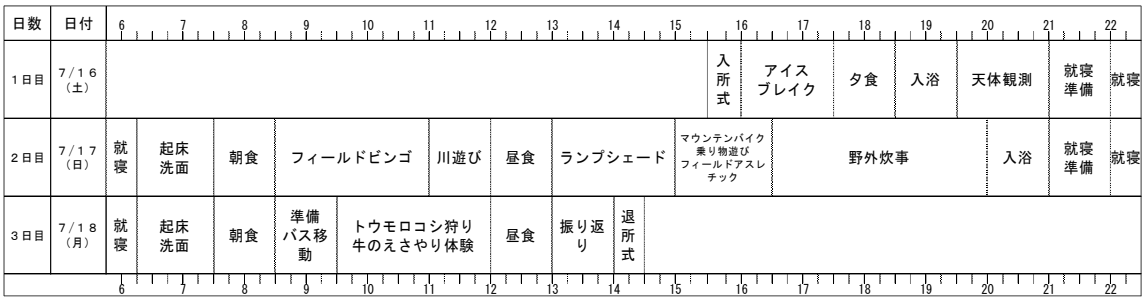
第１回　宮木牧場
第２回　森　結希　氏（絵本専門士）
　　蒜山スキー学校

（４）企画・運営のポイント

①　豊かな自然環境の中での活動ができるように、連携施設（岡山聖園子供の家）の希望を可能な限り取り入れたプログラム作りを心がけた。
②　より多くの子供たちに自然体験をしてもらうために夏と冬の２回を計画した。
③　所内だけでなく所外の施設も利用することで、多様な体験活動ができるようにした。
④　年上の子供が年下の子供の面倒をみる活動や責任をもって行う活動などを取り入れることで、自己肯定感を高められるようにした。
⑤　実施に際しては、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し、参加者同士の間隔や身体接触に留意したり、換気や消毒の呼びかけに努めたりしながら活動を行うようにした。

３．活動の内容等

（１）日程　第１回

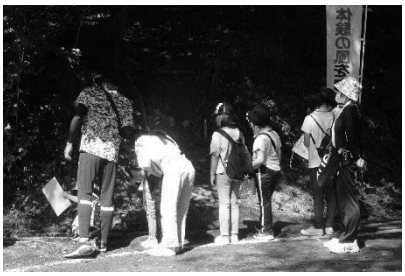


日程　第２回

２月４日（土）		２月５日（日）	
11:00	入所式・仲間づくり	6:30	起床・洗面
12:00	昼食	7:30	バス移動・朝食
13:00	探索	9:30	準備
13:45	ネイチャーパウチ	10:00	スキー教室
15:00	野外炊事	12:00	昼食・雪上体験
18:30	ベッドメイキング	14:30	片付け
19:00	入浴	15:00	バス移動
20:00	休憩	16:30	退所式
20:30	絵本の読み聞かせ		
21:30	就寝準備		
22:00	就寝		

（２）活動の状況

【第１回：アイスブレイク】



【第１回：フィールドビンゴ】

【第１回：川遊び】

【第１回：野外炊事】

【第１回：トウモロコシ狩り】

【第１回：牛のえさやり体験】

【第２回：ネイチャーパウチ】

【第２回：野外炊事】

【第２回：絵本の読み聞かせ】

【第２回：スキー教室】

４．成果・課題

（１）満足度

第１回　満足：１００％

第２回　満足：　８７％　やや満足：１３％

（２）参加者の声

①　第１回

ア．幼児・児童・生徒

ａ．とても貴重な体験ができました。ぜひまた来たいです。

イ．職員

ａ．職員の雰囲気が良く、子供たちも安心して過ごせたと思います。

ｂ．高校生が小さい子の面倒を責任もってみるなど、普段見ることができない一面を見ることができてよかったです。

②　第２回

ア．児童・生徒

ａ．分からないことがあったり、困っていたりしたらボランティアや職員の方が声をかけてくださり、嬉しかったです。スキーでもアドバイスをしてくださったりしたので、とても楽しい思い出になりました。

ｂ．初めてスキーをやってみて思っていた以上に難しかったけど、とても楽しかったです。ボランティアの人たちとも色々なことを話せてとても楽しかった。

イ．職員

ａ．子供たちは初めての経験が沢山で目を輝かせていました。帰ってからも「楽しかった」「時間を戻せたらいいのに」など口にしていました。施設では体験できないとても充実した２日間でした。子供たちの良い所を改めて感じることができて感謝しています。

ｂ．２日間の流れやプログラム、活動内容もとてもよかったです。子供たちには火おこしや薪割りの経験は貴重な体験になったと思います。スキーを特に子供たちは喜んでいました。

（３）成果

① 活動の初めに全体での目標を共有したことで、参加者は一人一人意識して行動することができた。

② 子供たちにとって普段できないことをたくさん体験することができ、満足してもらうことができた。最後に涙を流す子もいて、たくさんの思い出をつくることができた。

③ 園では普段見られない子供たちの姿を引き出すことができた。

④ 職員、ボランティアが参加者一人一人に積極的に声をかけたことで、参加者も安心した雰囲気で過ごすことができた。

（４）今後の課題

① 第１回は、幼児から高校生まで年代が幅広く、今回のプログラムではゆとりが少なく、タイトなスケジュールとなった。移動時間や休憩時間も考慮して、ゆとりのあるプログラムを計画していく。

② 第２回で使用したスキー場は、ウェアーレンタル、リフト、スキー教室が全て別会社だったため、連絡が複数にわたり事前準備に時間がかかった。旅行会社を介するなどして負担軽減につなげたい。

③ 利用日が日曜日であったため、スキー場には多くの人がいて、エリアも広く参加者の所在確認に苦労した。トランシーバーを用意し、適宜連絡を取り合ったが、参加者にビブスを着用してもらい、視覚的にもわかりやすくする。

④ 県内の児童養護施設に当所の事業情報が効果的に伝わるように広報していく。

担当：企画指導専門職　　藤本　昌克

令和４年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備でチャレンジ！イングリッシュキャンプ

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

英語を用いて外国人講師や仲間と協働して自然体験活動を行うことで、表現力やコミュニケーション能力、自ら考えて行動する力、チャレンジ精神を身につけるとともに、自国や他国の文化について理解を深める。また、外国人講師との交流を通して、外国文化に親しみを持つとともに、国際交流を楽しみながらコミュニケーションを図る。

２．事業の概要

（１）期日

令和４年１２月１日（木）～１２月２日（金）１泊２日

（２）参加者

①　参加対象・人数
吉備高原小学校６年生１３人

②　参加者
吉備高原小学校６年生１３人

（３）講師等

ベラ・ノヴィツカヤ　氏（岡山県県民生活部国際課　国際交流員）
ノリス・ジョシュア　氏（奈義町情報企画課　国際交流員）

（４）企画・運営のポイント

①　事前打ち合わせでの「英語に対する苦手意識が強い児童が多い。」という担任の先生からの情報を受けて、昨年度とは異なりオールイングリッシュの形はやめて、日本語を交えつつ英語に親しむことを第一の目的に設定した。

②　レクリエーションでは、外国人講師に指導を依頼し、母国の文化紹介や英語を使ったゲームで外国文化への興味を高めた。

③　学校から普段英語の授業で使用している教科書を見せていただき、学校で習った表現や単語を事前に調べて活動に取り入れた。

④　今回参加した学年は、新型コロナウイルスの影響で宿泊事業の経験が少ない学年だった。当初は９月に実施予定であり、新型コロナウイルスの状況をみて日帰りでの実施も想定したが、学校側からの要望に応じて開催日時を延期し、宿泊形態で行った。

３．活動の内容等

（１）日程

１２月１日（木）		１２月２日（金）	
9:30	開会式・オリエンテーション（Opening＆Orientation）	6:45	起床（Wake up）
		7:15	掃除(Clean up)
10:30	アイスブレイク(Ice Breaking)	7:45	ラジオ体操（Radio calisthenics）
12:00	昼食(Lunch)	8:00	朝食(Breakfast)
13:00	レクリエーション(Recreation)	9:00	交流(Meet and greet)
14:30	オリエンテーリング(Orienteering)	9:30	点検(Room inspection)
16:30	寝具説明・休憩(Bed making・Rest)	10:00	野外炊事(Outdoor cooking)
17:30	夕食(Dinner)	14:30	閉会式(Closing)
19:00	キャンドルのつどい(Candle night)		
21:00	入浴（Bath time）		
22:00	就寝（Bed time）		

（２）活動の状況

【オリエンテーション】

【レクリエーション】

【オリエンテーリング１】

【オリエンテーリング２】

【キャンドルのつどい1】

【キャンドルのつどい2】

【野外炊事1】

【野外炊事2】

【野外炊事3】

【閉会式】

４．成果・課題

（１）満足度

満足：８８％　やや満足：１２％

（２）参加者の声

①児童

ア．外国語には全く興味がなかったけど、イングリッシュキャンプで少し興味がでてきた。

イ．外国の人と英語で話すことが少しできた。すごく楽しかった。

ウ．とても楽しく、またあれば参加したいと思った。

エ．これからももっと英語を使っていきたいです。

②教員

ア．外国語に興味を持つきっかけになっている子供がいると嬉しく思う。

イ．交流員たちと親密になれるゲームやアクティビティなどふんだんに取り入れられ、児童も心から楽しむ気持ちにあふれていたと思います。

（３）成果

① 日本語を交えながらの実施になったので、抵抗感が少なく活動に取り組め、英語に親しむことができた。

② 学校行事で発表した英語での自己紹介や、学校で習った英語表現を活動に組み入れることで英語に対する苦手意識を緩和することができた。

③ 外国人講師から海外の文化や現地のアクティビティを楽しく紹介してもらったことで、外国文化に親しむことができた。

④ 開催日程を延期して宿泊事業を行ったことで、児童たちにとって今年度初めての宿泊学習になり満足度が上がった。

（４）今後の課題

① 余裕を持ったスケジュールを作成し、部屋での休憩時間を多く取り入れたが、アクティブな児童たちが多かったので、もう少し活動時間を増やしてもよかったかもしれない。活動と休憩時間のバランスについて、児童たちの様子をよく知る担任の先生に事前に相談する必要がある。

② 今回は日本語を交えつつ実施したが、対象学年によっては学校よりオールイングリッシュで実施してほしいと要望があることが想定される。担当の職員がオールイングリッシュでも対応できるように、英語研修などを積極的に受けておく必要がある。

担当：企画指導専門職付　小城　洋介

令和４年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
自然体験活動指導者（NEAL リーダー）養成事業

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、自然体験指導者（NEAL リーダー）を養成することにより、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者を育成する。

２．事業の概要

（１）期日

前期：令和４年５月１４日（土）～５月１５日（日）１泊２日
後期：令和４年６月　４日（土）～６月　５日（日）１泊２日

（２）参加者

①　募集対象・人数
自然体験活動の指導者になりたい、あるいは興味・関心のある方　２０人程度

②　参加人数
前期２６人　（大学生１７人、社会人９人）
後期４１人　（大学生３２人、社会人９人）

（３）講師等

前期：１日目
講習①「自然体験活動の技術　その１」
講師：延原　正章　　（国立吉備青少年自然の家　主任企画指導専門職）

前期：２日目
講習②「自然体験活動の安全管理」
講師：井上　桂　　氏　（下関市深坂自然の森　森の家下関　所長）
講習③「青少年教育における体験活動」
講師：土田　豊　　氏　（中国短期大学　保育学科　教授）

後期：１日目
講習④「自然体験活動の特質」
講師：西村　典芳　氏　（流通科学大学　人間社会学部　観光学科　教授）
講習⑤「対象者理解」
講師：石川　順雄　氏　（尾道市立栗原小学校　校長）

後期：２日目
講習⑥「自然体験活動の指導」
講師：蓬田　高正　氏　（天理大学　体育学部　体育学科　准教授）
講習⑦「自然体験活動の技術　その２」
講師：延原　正章　　（国立吉備青少年自然の家　主任企画指導専門職）

（４）企画・運営のポイント

① 前期日程をボランティア養成研修と合同で実施することで、両方の資格を取れるようにした。

② ６つの大学で直接広報を行い、野外活動での安全管理や指導法について学びつつ、永年資格が取れることを広く周知した。

③ 募集人数に対して例年より多くの応募があったため、宿泊部屋を２倍に増やしたり、野外での活動を増やしたりするなどの新型コロナウイルスの感染対策を行い、希望者全員に受講していただくこととした。

④ 修了試験後のガイダンスで、NEAL リーダー資格取得後に関する情報提供を行った。〔当所事業の案内や上位資格（インストラクター）の取得に向けての講習会情報や履修方法等〕

３．活動の内容等

（１）日程

① 前期

5 月 14 日（土）		5 月 15 日（日）	
12:30	受付	6:15	起床・洗面・清掃
13:00	ガイダンス	7:30	朝食
13:45	アイスブレイク	9:00	講習②「自然体験活動の安全管理」
14:30	講習①「自然体験活動の技術その１」	12:00	昼食
19:00	入浴	13:00	講習③「青少年教育における体験活動」
20:30	情報交換会	14:30	解散
22:00	就寝		

② 後期

6 月 4 日（土）		6 月 5 日（日）	
13:00	受付	6:15	起床・洗面・清掃
13:30	ガイダンス	7:30	朝食
14:00	講習④「自然体験活動の特質」	9:00	講習⑥「自然体験活動の指導」
17:30	夕食	10:30	講習⑦「自然体験活動の技術その２」
18:30	講習⑤「対象者理解」	12:30	昼食
20:00	入浴	13:30	講習のまとめ
21:00	情報交換会	14:00	修了試験
22:00	就寝	14:30	ガイダンス
		15:00	解散

（２）活動の状況

①　前期

【自然体験活動の技術】

【自然体験活動の技術】

【自然体験活動の安全管理】

【青少年教育における体験活動】

②　後期

【自然体験活動の特質】

【対象者理解】

【自然体験活動の指導】

【修了試験】

４．成果・課題

（１）満足度

前期　満足：７７％　やや満足：２０％　やや不満：３％

後期　満足：９５％　やや満足：５％

（２）参加者の声

①　指導者として必要な能力を学べて良かった。

②　ワークの中で、自分にはない考えの発見があって楽しかった。

③　どのような指導者になりたいかぼんやりとしか持っていなかったため、言葉にしようとするととても難しかったが、自分に足りていないことがはっきり分かった。

（３）成果

①　周辺の青少年教育関係団体への周知や大学への直接広報を多数実施し、募集期間を長く設定したことで、例年より多くの参加人数となった。

②　指導者として必要な知識や技能について、大学生から現役の社会教育指導者まで多岐にわたる人たちと意見交換をすることができ、さまざまな体験を通して自然体験活動に関する理解を深められた。

③　全参加者がNEALリーダーの修了試験に合格することができた。

（４）今後の課題

NEAL後期の受講時に、ボランティアとしても活動したいとの意見が複数あった。吉備の受講形態上、NEALのみを受講している人は「ボランティア養成研修」の単位が４．５時間分足りないため、登録することができない。所内で検討し、今年度は６月１９日（土）に補講を実施して８名の追加登録としたが、来年度に向けて調整が必要である。

担当：企画指導専門職付　西川　和志

令和４年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
チームビルディング研修

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年教育活動や学校での学級経営などで仲間づくりに興味のある方が、講義・演習を通して活動の目的を達成するための基本理念を理解し、様々な仲間づくりゲームを体験することで、日常で活かせる実践力を身に付ける。

２．事業の概要

（１）期日

令和４年１０月２２日（土）日帰り

（２）参加者

①　募集対象・人数

青少年教育指導者・教員・学生・その他仲間づくりに興味のある方
２４人

②　参加者

６人

（３）講師等

藤本　昌克（国立吉備青少年自然の家　企画指導専門職）
西川　和志（国立吉備青少年自然の家　企画指導専門職付）
角田　怜那（国立吉備青少年自然の家　企画指導専門職付）

（４）企画・運営のポイント

①　講師が普段の仲間づくりで使用している用具やお勧めできるゲームを紹介することで、より実践的な研修にすることができた。

②　当施設職員が主体となって２名体制で指導にあたることで、スキルアップにつながる機会とした。

③　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手指消毒や部屋の換気による環境面でも対策を講じることで、参加者が安心して研修を受けられる体制を整えた。

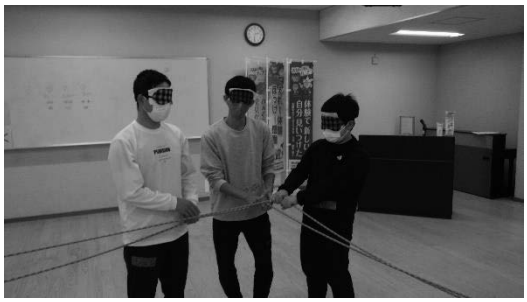
３．活動の内容等

（１）日程

10 月 22 日（土）	
9:30	受付
10:00	開会式
10:30	ＫＡＰ（吉備アドベンチャープログラム）の体験
12:00	昼食
13:00	ＫＡＰ（吉備アドベンチャープログラム）の体験 所内にあるＰＡ施設（ローエレメント）等の体験
15:30	閉会式 解散

（２）活動状況

【KAPの体験①】



【KAPの体験②)】

【KAPの体験③】

【所内にあるPA施設の体験】

４．成果・課題

（１）満足度

満足：５０％　　やや満足：３４％　　やや不満：１６％

（２）参加者の声

①　体験という形だったのでたくさんのレクに触れることができてよかったです。また、指導者養成講習会のようなものにも興味があります。

②　参加人数が少なく、日帰りのプログラムというのも残念でした。

（３）成果

①　日帰りで実施することで、参加者への負担を減らし、参加に対する敷居を低くすることができた。

②　新型コロナウイルス感染防止の対策を参加者にも徹底してもらうことで、安心して参加してもらうことができた。

（４）今後の課題

参加人数が確保しにくい状況になっているため、事業の目的と合わせて再構築する必要がある。

担当：企画指導専門職付　西川　和志

令和４年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティア養成研修

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、施設ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

２．事業の概要

（１）期日

令和４年５月１４日（土）～１５日（日）１泊２日

（２）参加者

①募集対象・人数

高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人　３０人

②参加人数

４９人　（大学生３８人、高校生１１人）

（３）講師等

講義１「ボランティア活動の意義」
講師：室　貴由輝　氏
（岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室室長
一般社団法人　やかげ小中高こども連合）

説明１「青少年教育施設におけるボランティア活動」
報告：法人ボランティア２人（国立吉備青少年自然の家）

講義・演習１「ボランティア活動の技術」
講師：延原　正章（国立吉備青少年自然の家　主任企画指導専門職）

講義・演習２「自然体験活動の安全管理」
講師：井上　桂　氏（下関市深坂自然の森　森の家下関　所長）

講義２「青少年教育における体験活動」
講師：土田　豊　氏（中国学園短期大学保育学科　教授）

講義３「青少年教育施設の現状と運営」
講師：髙藤　佳明（国立吉備青少年自然の家　所長）

説明２「青少年教育施設におけるボランティア活動」
説明：藤本　昌克（国立吉備青少年自然の家　企画指導専門職）

（４）企画・運営のポイント

① 開催については、例年通りの１泊２日で企画し、開催１週間前に新型コロナウイルスの感染状況を確認して検討し、企画どおりの開催とした。

② 広報については、県内の大学や高校にチラシの送付と窓口での連絡を主に行った。さらに許可を得た６大学と１高校については訪問して直接広報を行うことができた。

③ 各講義では、青少年の体験活動を実践・支援されている講師の方々に依頼して実践に基づいた講話を聴くとともに、職員からも具体的な説明を行った。

④ ボランティア活動で必要な技術や知識を習得するために、演習として吉備での活動や救命救助なども取り入れ、体験を通して技能の習得を図った。

⑤ 当所の設ける新型コロナウイルス感染防止の基準を満たしたため、申込人数の５２人全員の参加を認めた。（うち３人は当日までにキャンセル）

⑥ 実施に際しては、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し、参加者同士の間隔や身体接触に留意したり、換気や消毒の呼びかけに努めたりしながら講義・演習を行うようにした。

３．活動の内容等

（１）日程

５月１４日（土）		５月１５日（日）	
9:30	受付	6:00	起床・洗面
10:00	開講式	6:45	清掃
10:30	講義１	7:30	朝食
	「ボランティア活動の意義」	9:00	講義・演習２
12:00	昼食		「青少年教育における安全管理」
13:00	説明１	12:00	昼食
	「青少年教育施設におけるボランティア活動」	13:00	講義２
14:00	アイスブレイク		「青少年教育における体験活動」
14:30	講義・演習１	14:45	講義３
	「ボランティア活動の技術」		「青少年教育施設の現状と運営」
17:30	夕食	15:45	説明２
19:00	入浴・休憩		「青少年教育施設におけるボランティア活動」
20:30	情報交換会	16:45	閉講式
22:00	就寝		

（２）活動の状況

【開講式】

【講義１「ボランティア活動の意義」】

【説明１「青少年教育施設におけるボランティア活動」】

【アイスブレイク】

【講義・演習１「ボランティア活動の技術」】

【講義・演習２「青少年教育における安全管理」】

【講義２「青少年教育における体験活動」】

【講義３「青少年教育施設の現状と運営」】

【説明２「青少年教育施設におけるボランティア活動」】

【閉講式】

４．成果・課題

（１）満足度

満足：８０％　やや満足：２０％

（２）参加者の声

①　ボランティアに関しての知識やボランティア以外に応用できる知識も学ぶことができて、大変有意義な時間だった。

②　新しく聞くもの、見るもの、体験するものばかりだった。体験の風が起こっていたと思う。

③　大学生や高校生と関わり、交流の幅が広がった。また、先輩ボラと交流ができ、今後もボランティアをする際に質問をして、積極的に活動できるようにしたい。

④　ボランティアの理念や考え方などで学びを深める場面が多々あった。ボランティアとは何なのか、教育とは何なのかを改めて考えることができた。

（３）成果

①　新型コロナウイルスの影響により、参加者が集まるか懸念があったが、大学や高校への広報活動の成果もあり、募集人数を大幅に超える参加者を得ることができた。

②　外部講師には、それぞれの立場から、分かりやすく講義をしていただき、参加者はボランティアとして基礎的な知識や技能を習得することができた。

③　継続ボランティアからの発表や交流もあり、法人ボランティアとしての活動内容がよく分かり、参加者全員が法人ボランティア登録をすることができた。

（４）今後の課題

①　広報活動の成果は大きかったが、申込締切の直前に広報活動に行く場所もあり、早めに広報活動ができるように大学や高校と調整を行っていく。

②　ボランティアの魅力が伝わり、多くの参加者がボランティア活動に参加してもらえるように、講義の内容や形式を工夫していく。

③　受講する態度や姿勢が悪い高校生や大学生も見られたので、注意して将来の社会人としての自覚を高めていく必要がある。

④　コロナ対策で、座席を指定したり、情報交換会でグループ活動を制限したりするなど、今後も感染対策の指針をもとに判断していく。

担当：企画指導専門職　　藤本　昌克

令和４年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
ボランティア自主企画事業

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

自然体験活動の機会が減少している現代に、オリエンテーリングや巨大アートなどの活動を通して自主性や協同性を育み、自然との触れ合いを楽しむことを目指す。

２．事業の概要

（１）事業名

「あつまれ！きびのもり～からだで表現、みんなで描こう巨大アート～」

（２）期日

令和５年１月１４日（土）～１月１５日（日）１泊２日

（３）参加者

①　募集対象・人数
小学校３・４年生　１６人

②　参加人数
企画ボランティア１６人　小学校３・４年生１６人

（４）企画・運営のポイント

①　ボランティア・コーディネーター（以下ボラコー）は、自主企画事業の趣旨や企画事業の目的に沿った事業運営ができるように、法人ボランティアとの電話やメール、会議など相談の機会を多く取るようにした。

②　法人ボランティアが利用団体として手続きをする経験を積むことができるように、打合せや購入物品の申請などの書類提出や手続きについて指導した。

③　法人ボランティアが計画した活動を実際に体験し、感じたことや改善点を修正できるように、事業当日までに２回の事前研修の日程を確保した。また、事業当日も前泊をして余裕を持って準備できるようにするなど、法人ボランティアが自信をもって事業を運営できるように支援した。

④　参加者に安心・安全に活動してもらえるように、安全管理や配慮事項について法人ボランティアとボラコーで共有した。

⑤　多くの応募を募るために、地元を対象エリアとする「吉備ケーブルテレビ」に取材をしてもらい、広報に務めた。

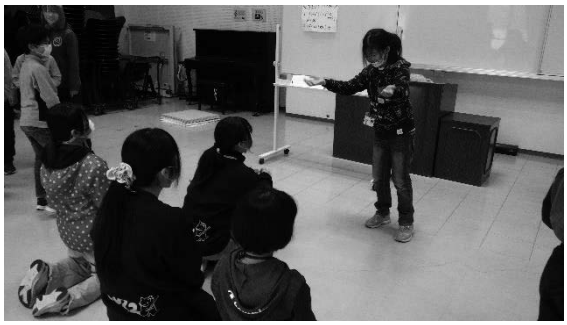
３．活動の内容等

（１）日程

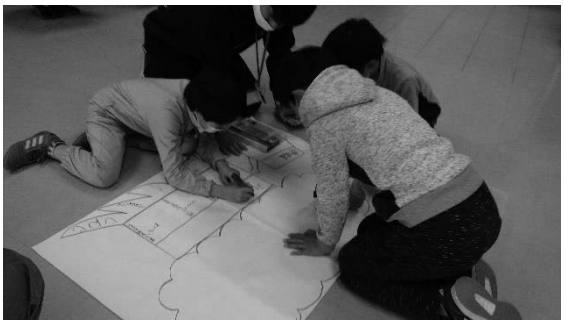
	1 月 14 日（土）		1 月 15 日（日）
10:00	開会式	6:45	起床
10:30	仲間づくりのゲーム	7:15	準備・清掃
11:30	目標づくり	8:00	朝食
12:00	昼食	9:00	みんなで描こう巨大アート
	みんなでつくろう！吉備ずかん	12:00	昼食
15:00	休けい	12:45	お楽しみ
15:45	KIBI’ｓキッチン	13:20	ふりかえり
18:45	ずかんしょうかいタイム	14:00	閉会式
19:30	ふりかえり		
20:00	入浴・就寝準備		
21:00	就寝		

（２）活動の状況

【開会式】



【仲間づくりのゲーム】



【目標づくり】

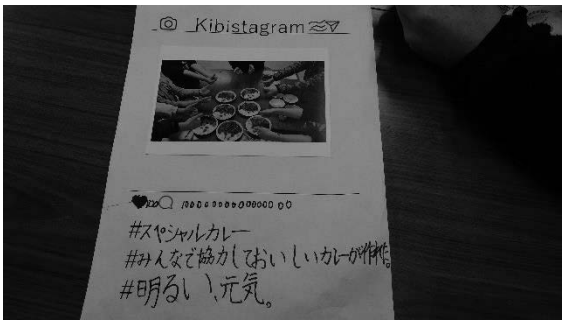
【みんなでつくろう！吉備ずかん①】

【みんなでつくろう！吉備ずかん②】

【みんなでつくろう！吉備ずかん③】

【KIBI’sキッチン①】

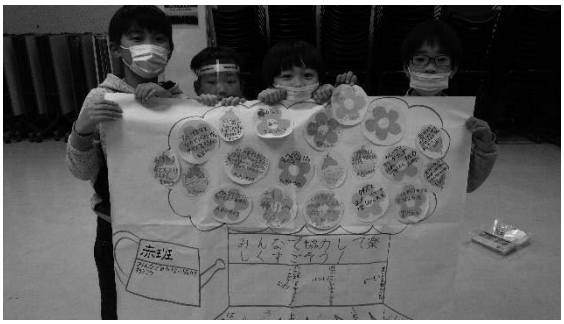
【KIBI’sキッチン②】



【KIBI’sキッチン③】

【みんなで描こう巨大アート①】

【みんなで描こう巨大アート②】



【振り返り】

【閉会式】

【巨大アート所内掲示】

４．成果・課題

（１）満足度

満足：１００％

（２）参加者の声

①　児童

ア．楽しく自然を勉強できる機会になった。

イ．目標を自分達で立てて、それを達成できたからよかった。

ウ．楽しかった！みんなで協力できた。新しい友達ができた。

②　法人ボランティア

ア．自然と触れ合うことが大切だと子供たちに自覚させ、活動を通して、協同性を育み、実生活でも実践できるようサポートできた。

イ．初めて参加、継続、いろいろなボランティアが参加していて、思いの込められたキャンプを企画ができてよかった。

ウ．先輩方に今回参加していただいて、背中を見ながら成長できたと思う。

（３）成果

①　ボラコーと連絡を細かくとったり、事業当日までに２回の事前研修をしたりしたことで、法人ボランティアはしっかりと計画を練ることができ、事業当日もゆとりをもって実施することができた。また、ボラコーの助言や指導によって、法人ボランティアは自信をもって事業を運営することができた。

②　安全管理や配慮事項について法人ボランティアとボラコーで共有したことで、参加者に安心・安全に活動できる事業を提供できた。

③　法人ボランティアから発想豊かなアイディアが生まれたので、これからの事業企画の参考にしていきたい。

④　異なる学年の法人ボランティアが参加し、経験してきたことを伝え合ったり、役割分担をバランスよくしたりしたことで、組織としての力量が高まった。また、今後のボランティア活動への意識の高まりが見られた。

（４）今後の課題

①　参加者募集の広報として、チラシの配布に取り組んだが、参加者の応募が伸びなかったので、地元のケーブルテレビに協力してもらって取材を受けて番組で流してもらった。それでも参加者の応募が定員ぎりぎりだったので、チラシの拡散範囲や新聞の利用などの広報の仕方を検討していく。

②　開催時期として新型コロナウイルス感染症の拡大に重ねてインフルエンザの流行も心配された。ただし、準備期間を考えると秋は大学生にとっては実習期間と重なるなどの課題も見られる。開催時期については、法人ボランティアと早い段階で検討していく必要がある。

担当：企画指導専門職　　藤本　昌克

【ご寄附の活用について】

１．寄附金

（１）読書活動の振興のための絵本の購入

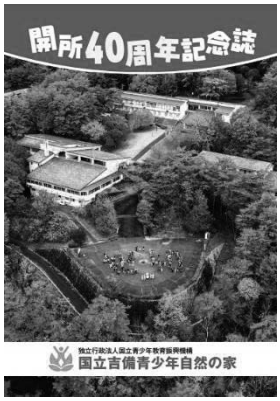
岡山県の絵本専門士による選書を春夏秋冬の季節ごとに３冊ずつお願いし、レストラン前に配架しております。今年度は計１６冊購入し、配下しました。絵本専門士が作成したポップとともに、お勧めの絵本を読むことができますので、お立ち寄りの際はぜひご覧ください。

（２）教育事業「キビキビ通学合宿」の参加費軽減

吉備中央町の小学校３～６年生を対象に、家庭から離れた共同生活の中で、様々な生活体験活動を通して、「生きる力」の基盤となる豊かな人間性や人間関係能力を高めるとともに、基本的生活習慣の定着や規範意識の向上を図ることを目的とした事業を実施しています。４泊６日の通学合宿の参加費が６，６４４円のところ、３，５００円に軽減することができました。

（３）開所４０周年記念誌の印刷

開所４０周年を記念し、記念誌の作成を行いました。５００部作成し、寄附者をはじめ関係各所に送付しました。



国立吉備青少年自然の家への寄附者　ご芳名

【令和４年度】

アトラクティブ大永株式会社
池田電業株式会社
エヌイーシール株式会社
太田設備工業株式会社
岡山県ｼｪｱﾘﾝｸﾞﾈｰﾁｬｰ協会
株式会社ｉプランニングＫＯＨＷＡ
株式会社吉備NC能力開発ｾﾝﾀｰ
株式会社吉備高原都市サービス
株式会社三和サービス
株式会社田中紙店
株式会社中国銀行吉備高原都市支店
株式会社三浦印刷所
賀陽交通株式会社
山陽事務機株式会社
中村建設株式会社
パナソニック吉備株式会社
毎美エンジニアリング株式会社
有限会社田中産業
株式会社Ｓｏｌｉｄ　Ｌｏｖｅ
株式会社ザロック

＜個人＞
岡田智宏
梶原朋司
河原孝輝
黒坂義昭
越宗倫生
小林優子
西尾広治
藤森龍二
山﨑和光
山下泰彦

（５０音順）

ご寄附いただき厚くお礼申し上げます

国立吉備青少年自然の家　職員一同

体験の風をおこそう運動とは

社会全体で子供の体験活動を推進し、その気運を高めていこうとする運動です。

遊びリンピックについて

「遊びリンピック」は、子供や保護者を対象に、自然体験や生活体験等の楽しさや達成感を実感してもらうとともに、体験活動推進の気運を全国的に高めることを目的として行う、競技性のある体験活動です。

当所では、「遊びリンピックマニュアル」を作成し、利用団体の皆様にご活用していただけるよう、様々な競技の紹介をしています。HP からダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

また、メダルや賞状などのお渡しや物品の貸出などを行っております。必要な場合はぜひ当所までご連絡ください。

カプラ積み

スポーツスタッキング

筒けん

どんぐり皿うつし

マニュアル（抜粋）

YouTube

ウーリーチャンネル【公式】
国立吉備青少年自然の家

編集発行 国立吉備青少年自然の家

TEL 0866-56-7232　FAX 0866-56-7235

E-mail kibi-senmon@niye.go.jp

Facebook「国立吉備青少年自然の家」

ホームページで検索　吉備青少年　検索

（吉備 HP）　（公式 LINE）